



教育を受けかづけられた若者は危険な伝統的慣習を
廃絶できる：ICEDAの経験から

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-04-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: テシヨメ, シーニ メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004839

2015年度 国際交流事業——国際シンポジウム

教育を受け力づけられた若者は
危険な伝統的慣習を廃絶できる ——ICEDAの経験から

テシヨメ・シーニ

翻訳：宮脇 幸生

本日は皆さんに、エチオピアのアカキ地域で少女や女性に対して行われている、有害な伝統的慣習を廃絶しようとする私たちの取り組みについてお話ししたいと思います。この問題の社会背景と、私たちの組織の取り組み、そして皆さんもその取り組みに関わることができるのだということについてお話ししたいと思います。最初に、私たちの組織ICEDAがこの問題に取り組み始めたときに、アカキ地域では女性たちがどのような状況に置かれていたのかについてお話ししましょう。

文化の多様性と宗教的多様性は、アフリカの国々に共通する特徴です。エチオピアもまたそのような社会的特質をもつことを誇りとしています。また一方で、多くの地域社会で、人々の幸福や健康を、とくに女性や子供たちの幸福や健康を害するようなさまざまな慣習があります。それらの慣習のなかでも、女性性器切除、早期婚、誘拐婚、相続婚／代替婚、女性の財産の相続権の否定、家族や地域社会での女性の役割の軽視は、エチオピアでは地域や宗教に関わらずひろく見られる慣習です。

オロミア州では、女性の外性器の一部あるいは全部を切除する女性性器切除¹⁾のすべてのタイプが、陰部封鎖（ファラオ型割礼）と呼ばれるもっとも過酷な形態を含め、広く行われています。そもそも陰部封鎖は、もっとも深刻な形で女性の権利の侵害です。そして実際にはそれは、ソマリ地域に隣接するオロモの牧畜民社会で今も行われているのです。それが宗教的な教えによるとみなされており、また伝統的ともみえるため、法律でそれを禁じて、また地域の人々の価値観を変えようと介入を行っても、

慣習は変わることなくつづけられているのです。

誘拐婚は、少女を誘拐し、意思に逆らった性関係を強制する強制的な結婚のことを指します。それは少女の人権の侵害ですし、犠牲者の心理的・社会的・経済的な被害に何の顧慮も払わない男性中心的な社会の仕組みの現れでもあります。誘拐婚が行われる理由はいくつかあります。男性が結婚に必要な結納を払うことができないので結納を支払わずに花嫁を手に入れるため、結婚を拒んだことに対する報復のため、そして一人の少女をめぐる複数の求婚者の間で競争があるときライバルを出し抜くためなどが、それらの理由です。

相続婚は、夫を亡くした女性と、その夫の兄弟が、女性の同意を得ずに結婚するというものです。その反対に、代替婚とは、妻を亡くした男性と、亡くなった妻の姉妹が結婚するというものです。相続婚が行われる理由は、夫を亡くした女性と結婚することで、亡くなった夫の財産を管理し、経済的な利得を得ようとするためです。また代替婚をする理由は、財産と遺児のケアを義理の妹に負わせることによって、男性は経済的・心理的な利得を得るのです。HIVの検査もせずにこのような婚姻をすることは、女性に大きな被害をもたらすことになるでしょう。

女性の財産相続権の否定とは、両親の財産や、結婚してできる夫婦の財産を、女性が相続することを制限するような慣習のことを指します。エチオピアのたいていの地域では、女性が財産の相続権をもたないことは、当然のこととみなされています。オロミア州の女性は、親や夫と離婚や死別をした場合、その財産を相続することができません。宗教的な教えでは男

¹⁾ アフリカで広く行われている女性性器に対する身体加工。世界保健機関（WHO）は女性性器切除を「非医療的な理由によって行われる、女性の外性器の一部あるいは全体の切除、および女性の外性器組織に対するそのほかの傷害を含むすべての行為」と定義し、性器に対する加工の形態に応じて、大きく4種類に分類している。タイプ1は「クリトリス切除」と呼ばれるもので、クリトリス（陰核）の一部あるいは全部を除去するものである。タイプ2は「切除」と呼ばれ、クリトリスと小陰唇の一部、あるいは全部を切除するものである。タイプ3は一般に「陰部封鎖」と呼ばれるもので、外性器の一部、あるいは全部の切除をしたうえで、尿や経血を排泄するための小さな穴を残して膣口部の縫合を行う。タイプ4は、針刺しや焼灼など、前述した3つのタイプ以外の形の非医療目的で行われる女性性器に対する加工をさしている [WHO 2008]。

女の平等が唱えられていますし、法律上は財産の平等な分配が定められています。また、女性の労働は適切に評価されるべきですが、ほとんどの場合、そのようなことはなされていないのです。伝統的な慣習は、女性の権利をはっきりとうたっている法的、宗教的な権利を否定しているのです。

アカキ郡はアジスアベバの郊外にあります。アジスアベバとジブチ、モヤレをつなぐアスファルト道路沿いの、アジスアベバの東37キロのところ、オロミア特別県に位置しています。アカキ郡は、一つの都市と30の地方行政地区に分かれています。あるデータによれば、人口は135,650人（48パーセントは女性）を越えています。87パーセントの住民は農民です。交通は非常に不便で、地方の集落にたどりつくのは容易ではありません。住民は情報を得る機



図1 アカキ郡の地方集落へのアプローチ

会や教育設備に恵まれておらず、ICEDAがこの地域でプロジェクトを始めたときには、98パーセントの住民が、読み書きができませんでした。

2000年にICEDAはアカキ郡で調査を行い、有害な伝統的慣習がまだに盛んになされていることを明らかにしました。たとえば、そこでは女性性器切除は幼児全員に対して行われていました。また90パーセントの女性が、18歳以下で結婚しており、もっとも早い女性は8歳で結婚していました。平均結婚年齢は、13歳でした。

誘拐婚も、婚姻の56～60パーセントにおよんでいました。もっとも心の痛んだことは、誘拐婚にあった女性のうちその80パーセントが1年以内に離婚していたことです。彼女たちは焼酎やビールを醸造し販売して生計を立てていましたが、そのような生活は彼女たちをレイプや望まない妊娠、安全ではない墮胎、そしてフィスチュラ²⁾の危険にさらすことになるのです。誘拐を恐れ、少女たちの多くは家にとどまることを強いられます。

社会は有害な伝統的慣習を許容しています。なぜならこのような慣習は、民族の存続のために必要なものと信じられているからです。私自身も、社会のほかの人たちと同様に、私の4人の妹たちが女性性器切除を受けたときにも、またそのうちの2人が13～14歳で誘拐されたときも、伝統を受け入れて声を上げることをしませんでした。

幸いなことに1992年、「伝統的慣習に関するエチオピア国家委員会 (NCTPE)」がローカルNGOとして設立された際に、私は当時所属していました「幼児・青年・家族の福利機関 (CYFWO)」によって、そのメンバーに任ぜられました。それ以来、私は訓練を受ける機会を得ることができ、女性と少女の幸福を害する伝統に終止符を打つには、女性の教育と経済的地位の向上こそが必要であることを学びました。1995年に私はNCTPEに就職し、オロミア州に支部を設立しました。そしてさまざまな地域において地域のリーダーのために多くの訓練を組織し、キャンペーンを行うことにより、私は、長い間続いてきた有害な伝統に終止符を打つには、無知と貧困を撲滅することが肝要であることを学んだのです。

1998年には、私は14人の友人たちとICEDAを設立しました。そしてICEDAの創設者として、私自身、自分の3人の娘たち（それぞれ25歳、19歳、17歳です）には、伝統に抗して女性性器切除を受けさせませんでした。

ICEDAはオロミア州およびエチオピア全土に行われている有害な伝統的慣習がなぜ存続しているのか、その背後にある原因を理解し、それに対処することを使命としています。その原因を一言でいえば、貧困と無知です。

第一の問題は、貧困です。地方に住む男性の多くは貧しさのゆえに、花嫁の家族に対して、宝石やお金、衣服や他の贈り物などの結納を支払うことができません。そのような男性にとって、たやすく花嫁を手に入れる方法は誘拐なのです。貧しい男性の一部は、それが自分にとって花嫁を手

²⁾ 産道と尿道あるいは直腸が癒着し、両器官の間に穴があき、尿や便が産道からもれるようになる障がい。エチオピアの場合、早期婚によって女性の身体が十分に発達していないうちに妊娠・出産し、狭い産道を胎児が圧迫するため、フィスチュラになることが多いと言われる。

入れる唯一の方法だとさえ思っています。同様に、子供を育てるための資産を持たない貧しい家族は、娘が誘拐されても抗議をしようとしません。なぜなら、娘が誘拐されたら、家族の食いぶちが減るからです。社会の貧しさのゆえに、少女がその犠牲者となるのです。彼女はどのように結婚するのかということについて、何の選択もできないのです。

当人たちに自覚のないことも、有害な伝統的慣習が存続するもう一つの重要な原因です。学校がないために、若者は有害な伝統的慣習を、有益な慣習だとみなすような環境で育ちます。彼らは倫理や女性の権利について学ぶことはありません。そのために男女間の不平等がまかり通るのです。女性は男性よりも教育を受けるチャンスが少なく、しばしば自分自身の権利や、権利が侵害されたときに対処するための法的な手段を知りません。また自分の権利にのっとって活動するための資源も持ち合わせていないのです。

有害な伝統的慣習を禁ずる法律や、それを犯したときに下されるはずの罰則も、まず執行されることはありません。少女を誘拐された家族は、誘拐者が家族に対して行うであろう攻撃を恐れます（例えば、家に放火したり、少女の父親を殴り殺したりさえします）。ですから家族は少女を助けることもできません。誘拐された少女やその家族が頼ることのできる有効な法的手段もないのです。

ICEDAはこのような、問題の背後に潜む原因に対して、働きかけを行っています。私たちは貧困を緩和し、他のNGOとネットワークを作り若者を教育することを通じて、女性のエンパワーメントと、ジェンダー間の平等の達成にむけて取り組んでいるのです。私たちは貧困の減少と識字教育を通して、花嫁の誘拐に対して戦っているのです。

私たちは地方において保健医療と教育を支援する施設を建設するために、ローカルNGOと共同して事業を進めています。さらに私たちは、女性たち自助グループの連合組織をつくるために、地域的な支援グループを設立してきました。そのような連合組織ができれば、さまざまな資源を利用し、社会の変化を推し進めるべく活動をしていくことでしょう。

私たちはとくに、若者に注目してきました。若者たちを組織し、暴力に

反対するクラブを作ってきました。奉仕活動、リーダーシップ、そしてネットワークを作る訓練を行ってきました。そして私たちのもとで学んだ若者たちは、小学校・中学校に行き、多くのクラブを作り、意識向上のためのフェスティバルを開催しました。教育を受けエンパワーされた若者たちこそ、誘拐婚の慣習に終止符を打つことができます。私たちの訓練した若者たちは、非常に意識が高く前向きです。彼らは強制的な結婚に反対して集会を開き、メディアの注目を集めました。

ICEDAは18の少女クラブを設立し、そのリーダーたちに自己啓発とリーダーシップ養成のための訓練を行いました。少女クラブは女性性器切除と早期婚が行われないように、各家庭に対する監視を行い、問題がある場合は女性児童問題局に通報します。その結果、今まで18人の少女が早期婚から逃れることができ、5人の少女が性器切除から逃れました。このクラブは学校にも働きかけ、1週間に1日は学校のメディアを用いて女性と少女の権利についての情報を流すようにしました。ICEDAはマイクとテープレコーダーを寄贈することで、学校のメディア設備の充実を支援しました。

この少女クラブに属す少女たちは、それぞれの集落に作られた「母親たちのフォーラム」（公開の場でさまざまな問題を話し合う集まり）と緊密なネットワークを持っています。「母親たちのフォーラム」のメンバーは学校を訪れ、少女たちと共同で、暴力行為は行われていないかについて監視を行っています。

現在、ICEDAはジンマ県でも少女たちのための自助グループを4つ設立しています。それらのグループでは、職を持たなかった少女たちへの職業訓練が行われています。その少女たちは、コーヒーの販売に携わることになるでしょう。

これらの問題に取り組むために、ICEDAはアカキ地域の30の村とドゥケム町、ガラン町に、「新しい基礎教育センター」を建設しました。就学経験のない16,000人の子供と大人が、そこで教育を受けることができるようになったのです。この「新しい基礎教育センター」には、学校に必要な家具と図書館、科学実験設備、教育センター、さらには女の子用のトイレ

が供えられています。教育、環境、女性参加およびHIVについて地域社会の意識を向上させるために、地域社会をベースにしたキャンペーンが組織され、80,000人を超える地域社会のメンバーが参加しました。

「新しい基礎教育」とは、学校の建物の建設にお金をかけない代わりに、学校の建築と運営に地域社会が参加すること、不利な立場にある民族集団・ジェンダー・特別な配慮が必要な集団を包摂すること、授業をその地域の言語で行い、その地域からファシリテーターを選ぶこと、迅速な学びと積極的で学習者中心の教えの方法論を用いること、そして柔軟な形で教育を行うことといった特徴を持つ教育方法のことを指しています。このプログラムでは、生徒は小学校の最初の4年間の授業を3年で済ませ、その後正規の学校に通うことができるようになります。「新しい基礎教育」は7歳から14歳の非就学児童を対象としています。もともと、牧畜民の住む地域や極端な遠隔地では、18歳から19歳の若者が参加することもしばしばですが。このプログラムを開始して以来、エチオピアでは初等教育への就学率が大きく改善し、また国内での就学率の地域差も減少しました。

私たちは、政策立案者やメディアの注目を引くことを心がけています。彼らが私たちの活動に注目することで、このような忌むべき慣習を廃絶するための適切な政策と開発戦略を考案するように促すためです。私たちは、パンフレット、ニュースレター、小冊子、ドキュメンタリーフィルム、出版物、バナー、看板、スカーフ、Tシャツなど、地域の言語を用いて非常に多くの情報媒体を作ってきました。強力なネットワーク形成と協同的なアプローチを通して、ICEDAは伝統的なリーダーたちに働きかけることによって、慣習法を見直し、女性と子供に悪影響を及ぼす伝統と価値観を終わらせるようにと促してきたのです。

ICEDAはさまざまな訓練の機会に、議会の著名な女性議員をゲストスピーカーとして招きました。地方の少女たちがこのような著名な女性たちを、自分たちのロールモデルとするように促すためです。ICEDAは女性の教員たちにも一連の訓練をほどこしてきました。そして公式、非公式の教育活動において、有害な伝統的慣習の廃絶とHIVの予防についての教育を、いかにして統合するのかを教えました。

またICEDAは児童の権利の推進と有害な伝統的慣習の廃絶の取り組みを統合するための訓練プログラムを組織し、地域社会のリーダーがそれに加わるように働き掛けてきました。また同様に、ICEDAは様々な公的行事を利用し、少女たちの教育と有害な伝統的慣習についての地域社会の意識向上の取り組みを組織してきました。またICEDAは30の集落で、女性性器切除と早期婚についての監視委員会を設立してきました。

私たちの活動の結果、人々の価値観と実践には大きな変化が見られるようになりました。多くの男性が誘拐者に立ち向かい、少女たちを守るようになりました。有害な伝統的慣習の廃絶と女子教育の推進も、今では慣習法に取り入れられるようになりました。女子生徒は交渉力と自信をもち、今では強制的な結婚や女性性器切除を批判するほどになっています。その結果、親の決める結婚や女性性器切除を拒絶する少女の数も、それを強いる親たちに対する告発と警察への報告件数も、年を追うごとに増加してきました。



図2 少女クラブの活動により早期婚を逃れた少女たち

少女たちの就学と学校への残存率は劇的に増加しています。アカキ郡では、男女間の就学率の差は6パーセントになり、退学率は4パーセントに減少しています。

女性性器切除についていえば、アカキ郡では、46人の割礼師が割礼用のナイフを壊し、女性性器切除を止めることを誓いました。これは大きな変化です。割礼師は地域社会で最も影響力のある女性たちです。彼女たちはそれまで、女性性器切除を擁護してきました。なぜならば彼女たちの多くは、割礼の技術を母親から受け継ぎ、地域社会で高い地位を得てきたのです。彼女たちは「知恵ある女性」であると地域社会で認められ、尊敬されてきました。それに加えて彼女たちは、収入としてお金と食料も得ていたのです。

ICEDAはまた現在、その経験をホールのような国周辺にある社会にも広げるために、国際的な支援を探しているところです。皆様方が私たちのプロジェクトに参加されるためにいくつかの方法があります。最後にそれをお話ししましょう。

第一に、女子教育を経済的に支援することです。一人の少女には150ドル必要で、それは皆様方の1カ月分の昼食の値段にあたるほどでしょう。しかしエチオピアでは、150ドルで一人の地方に住む少女が中等教育を1年間受けるためのコストをカバーできるのです。1,500ドルで10人の若い女性の職業訓練のためのコストをカバーできます。

第二に、ICEDAに技術的な支援をしてくださることです。

第三に、女性たちが輸出用の高品質のコーヒー、蜂蜜、スパイスを作っている「女性のビジネスセンター」を支援することです。このセンターは女性や少女の早期婚や女性性器切除を廃止するために運営されているわけではありませんが、現在世界中で問題となっている不法な人身売買を減少させるために運営されています。

エチオピアにいる私の同僚とともに、私は皆様方のどなたでも関心をお持ちの方を私たちの施設にご案内したいと思います。

最後に、もう一度皆様方にお伝えしたいメッセージを繰り返させてください。有害な伝統的慣習は、女性や児童だけでなく、国全体に悪影響を及ぼします。女性が教育の機会を奪われると、彼女たちは自分の地域集団や国の開発活動に参加できません。有害な伝統的慣習は、貧困と無知によって悪化する複雑で深く根を下ろした慣習です。有害な伝統的慣習の根絶に

は、統合的なアプローチが必要です。この慣習を終わらせるには、地域の、国の、そして世界のコミュニティのメンバーが参加することが必要です。私たちが子供たちが、有害な伝統的慣習のない、何も恐れることなく明るい未来の希望とともに生きることのできる社会を作るために、ともに手を取り合おうではありませんか。

最後に、私は皆さんに、アカキ郡の若者たちが女性性器切除に反対して戦っているドキュメンタリーフィルムを見ていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

World Health Organization (WHO), 2008, *Eliminating Female Genital Mutilation: Interagency Statement*

(<http://www.unfpa.org/publications/eliminating-female-genital-mutilation> 2015年12月20日アクセス).